

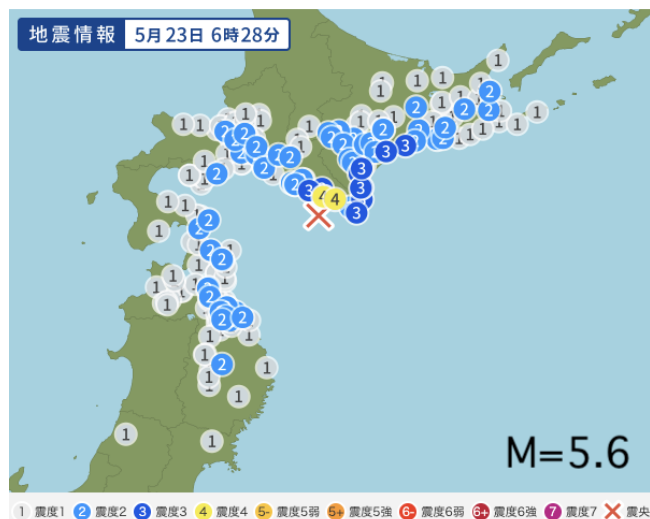
DuMA ニュースレター

2025年6月2日

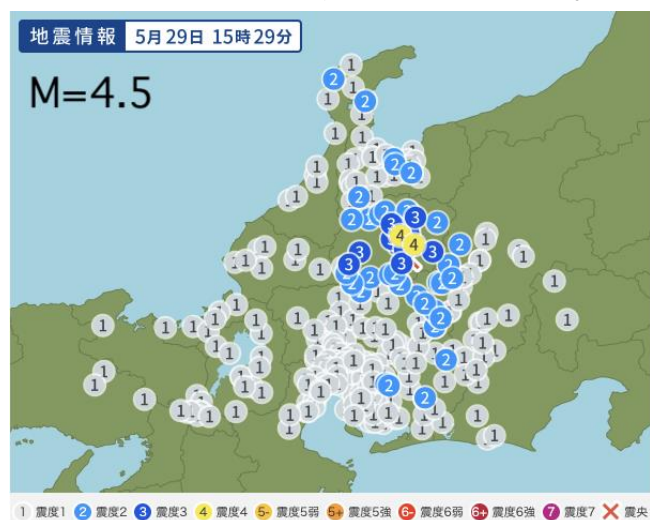
ここ10日ほどの活発な地震活動

先週（実際にはここ10日ほど）は少し地震活動が活発な1週間であったかもしれません。これは地球物理学的に”活発”であったという事ではなく、「大きな震度を観測した地震が複数あった」という事です。

まず5月23日に北海道・浦川沖で最大震度4、マグニチュード(M)5.6の地震が発生しました。次に26日には同じく北海道・十勝地方南部で最大震度4、M=5.3の地震が発生しました。



29日には岐阜県飛騨地方で同じく最大震度4、M=4.5の地震、そして31日には北海道・釧路沖で最大震度4、M6.1という地震が発生しています。いずれも震度は4となっていますが、マグニチュードは違います。岐阜県のM4.5と釧路沖のM6.1ではエネルギーは約250倍も違うのです。つまり市民にとっては震度が重要ですが、これは地震がどこで（たとえば陸域とか海域、海域でも海岸からの距離等の違い）発生したかによって、震度は異なります。

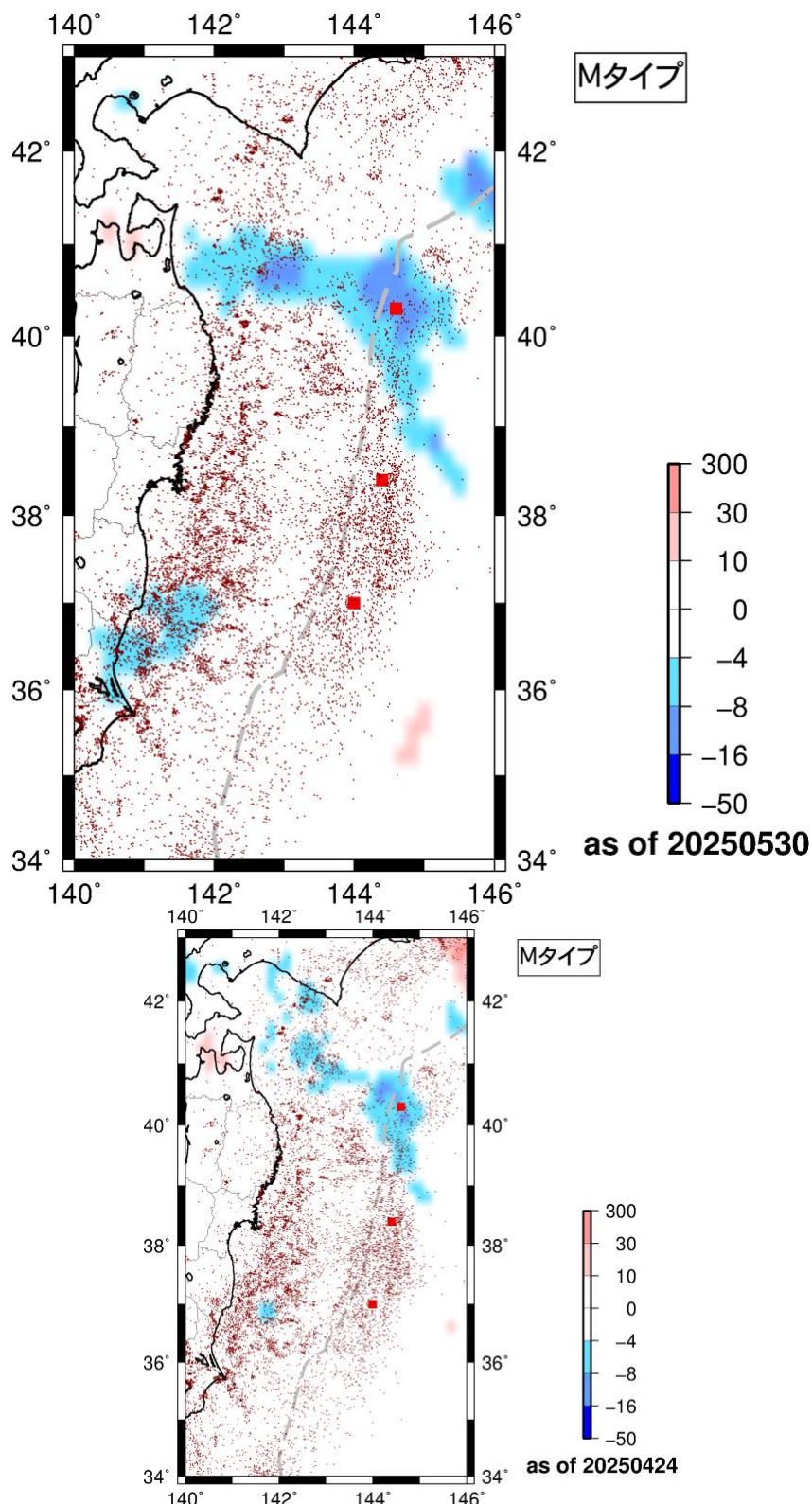


また一つの地震に対して、マグニチュードは1個と（基本的に）一対一で対応しますが、震度は一つの地震に対して非常に多くの値が出てきます。例えば5月31日の地震では、震度4が、釧路市、えりも町、浦幌町、釧路町、標茶町、標津町、震度3が帯広市、根室市、新篠津村、清里町、安平町、むかわ町といった具合です。極端な言い方をすれば震度計の数だけ一つの地震に対して震度はあるのです。

東北地方海域と北海道の地下天気図®

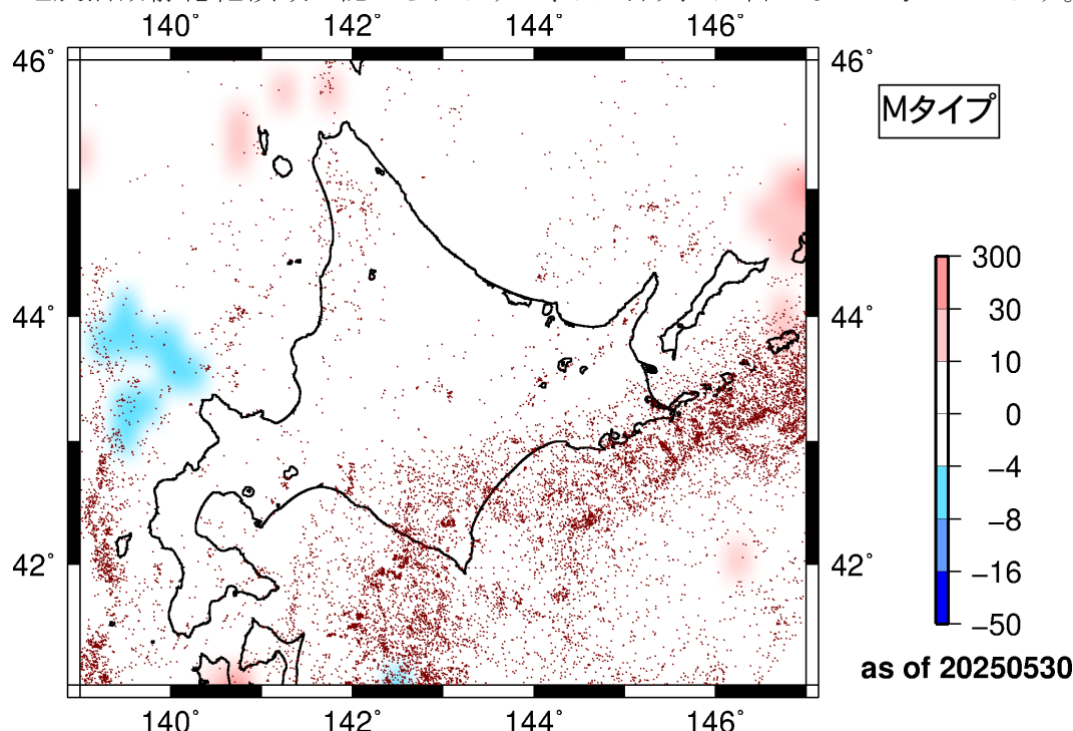
今週は5月30日時点の東北地方海域の M タイプ地下天気図と北海道の M タイプ地下天気図をお示しします。

青森県沖の日本海溝の東側(アウターライズ)での地震活動静穏化(図で青い部分)が、4月28日のニュースレターでお示した領域よりかなり目立つようになってきました。さらに茨城県・福島県沖にも地震活動静穏化領域が認められるようになりました。参考のため前回4月28日のニュースレターの図を再掲させていただきます。





次に北海道地域の5月30日時点の M タイプ地下天気図をお示しします。北海道については、北海道西方海域に地震活動静穏化領域が認められますが、まだ深刻とは言えないと考えています。



読者のみなさまはこれら東北沖の地下天気図と北海道の地下天気図が重なっている領域で同じではないと不思議に思う方がいらっしゃるのではないかと思います。

これは、解析に使用している地震の条件が東北沖では、沿岸から離れた地域の地震活動を解析しているため、マグニチュード3以上の地震を計算に使用しています。それに対し北海道では内陸で発生する地震も重視しているため、マグニチュード2以上の地震を解析に使用しているためで、どちらが正しいという事ではありません。

たとえば気象の天気図でも、普段我々は地表における天気図(気圧配置)を見ていますが、同じ時刻に高層天気図というものも存在します。地下天気図でも解析条件が異なるため、同じ日時に複数の地下天気図が存在するという事になります。